

「事前アンケートに基づく全体意見交換」のまとめ（抜粋）

Q1 地域にお住まいの方々に對し、公共交通に対する関心を引き上げ、また理解・協力を得ることについて、現在行っている取組みや成功事例、失敗事例、ご意見等（説明会や座談会、公共交通イベント等の観点から）
※地方公共団体様のみ回答

Q2 地域にお住まいの方々に對し、公共交通の利用促進・意識啓発に向け、現在行っている取組みや成功事例、失敗事例、ご意見等
※交通事業者様のみ回答

【辰巳先生】

- 多くの住民の方は全然困っていない。
- ものを売るときに、どうしても買いたいという人に対する営業の仕方と、本当は必要ないという人に対する営業の仕方では違うと思う。
今の地域公共交通で困っている人がいない中で、何とか皆に見て貰わないといけな時は、後者的な考え方が必要ではないかと思う。
無料乗車券を配布しても利用されない。無料だとお得だが、別に車があるので使わないだけで、その人達の関心を向けて貰うためには半強制的に乗って貰う、それを使って貰うことが重要で、そのために工夫をする必要がある。
- 例えばイベントをするときに、地域公共交通を使った人に対して得点を与えると、乗ることによって困っていない人にもメリットが生まれるようなことが重要かと思う。
- 無料乗車券を配布したが利用されなかったというご意見がある中で、久留米市のよりみちバスなど、無料乗車券を配布したときだけすごく利用が増えている。現場でどのような配布をしているのか、何かいいヒントがあるのではないかと。

【久留米市】

- 現在10人乗りのコミバスを走らせており、年に1回ダイヤ改正を行っている。ダイヤ改正を行った月は、今まで乗っていた方にも新しいダイヤに慣れて貰い、またこれをきっかけに今まで乗ったことがなかった方にも、是非乗って頂くため、運行している地域の全世帯に改正版の時刻表を配布している。
一緒に無料お試しキャンペーンを行うと言うことで、広告のチラシのように0円とハデハデのチラシを自前で作成し、配らせて頂いている。
- 配布先は、運行経路上の世帯には見られるようにしており、他には校区でサロン活動を行っており、我々のターゲットも高齢者と認識しているので、集まるような場所には、キャンペーンの告知やチラシの配布、口コミで広げて貰うなどお願いし利用促進に努めている。
- その月は、辰巳先生が言われるように、かなり利用者は伸びるが、実際、我々が大事にしなければならぬのはその後。後の落ち込みをなるべく少なくし、継続的に利用促進を考えているところ。

Q3 地域公共交通の確保・活性化に当たっては、地方自治体と交通事業者との間で調整、また、それぞれの組織内部でも異なる部署（地方自治体であれば交通と観光・福祉・教育等、交通事業者であれば営業と企画・運行・管理等）が連携しているが、このような調整・連携に関する課題、成功事例、失敗事例、ご意見等

【八代市】

○市役所の職員向けに公共交通についてコミュニケーションアンケートを行ったが、利用率が23%と少なく、なんでこんなことをやるのかと文句まで書かれてしまうような状況。部局どころかまず身内にどう乗って貰えるのか。

もう1点、モビリティマネジメントについて、第三者評価委員会でも報告させて頂いたが回答率が10%とかなり低い。住民向け、役所向けも冊子をみてワークをして下さいと言うことで冊子に入れ込んだので、それが面倒で回答頂けないのか興味がないのか、せめて行政職員には関心を持って貰いたいと思っている。

その当たりで興味を持ってもらえるような良い事例、お知恵があれば教えていただきたい。

【辰巳先生】

○行政の方に関心を持って貰うときに、幸いなことに多くの自治体で選任の担当者がいない。行政の中で色々な人が分担して公共について説明をする説明者になっていただくのがいいのではないか。

自分が説明する立場になると詳しく調べないと説明が出来ず、半強制的ではあるが業務として興味を持って貰うというのもあるのではないか。

○イベントを開催してやるのではなく、通常の業務の中でついでに説明をするというのであれば担当者の負担にもならないと思うので、業務として勉強してもらうことで関心が出ることもあるのでは。

○説明者にも自分は使っていないという方がいらっしゃるが、それでは相手には響かない。いかに相手の心に響くかということを経験すると、行き着くところは、一回は自分で使ってみないとその良さはきちんと伝えることが出来ないとの話になる。

議論をすることで、乗る機運が高まり、役所の方は使ったことはあるとの話になるのではないか。

【大井先生】

○役所の方で関係する部署は、交通会議に入れて貰っている。何故かという質問があったときに直ぐに答えられないと困るというのがあるが、それをやると分かって貰える。むしろ会議メンバーに強制して貰った方がいいと思う。

○Q3で複数事業者の調整が難しいとの事だが、独禁法の調整を国の方で行っており、もう少しするとその辺の調整が交通会議の協議として出来ると思うので、もう少し待っていただいた方がいい。

○イベントにあった運行やなかなか利用が伸びないとの話もあると思うが、最近お願いしているのは、交通会議の前後の時間で会議の参加者にバスに乗って貰っている。

自分の所のバスがこんなものですよと分かって貰うためいくつかの自治体で始めている。

それをやるとタクシー会社がバスのことを良く知らなくても、乗ってみてこういうものなんだと分かってくれるようになった。

うちでやるんだったらこういう風出来るよというのを考えてくれるようになった。

バスとタクシーが妙にいがみ合うことがなくなった。

是非そういうのをやっていただきたい。使っていない人を乗せてみてちゃんと乗ったうえで議論する。

○イベントに乗り物を合わせて、合わないから困るというところでもがくと言うこともあるが、逆の発想は出来ないのか。今ある列車の時間帯、バスの時間帯でイベントをそこにはめ込んで、それで使ってみていいよとなればいい。

○事業者は実績がないと次に踏み切れない。やれば来るからとやってみてダメだった時が一番最悪。今ある資源を使うところからやってみると、結構やれることはある。

○Q2に繋がるが、無料乗車券とかチラシを巻いたと言うのは、興味のない人は見ないし、やることで何のメリットがあるのか分からないと買わないと思う。

○一番典型的なのがジャパネット高田さんのものの売り方。

あれは物の機能の話はほとんどしないが、使ったらこう使えますよねというところから行って戻る。何が出来るかを言って戻る。公共交通に興味が無い人にチラシをばら撒いても全部ゴミ箱行き。交通の情報から辿ってそういうものを探す人はほぼいない。いないと思ってやった方がむしろお客さんは乗ってくる可能性が高い。

そこでの組合せを考えた方が、事業者さんにデメリットになる話ではない。

双方がメリットになる。そういうご検討をしていただきたい。